

祭典行事

歳旦祭・大祈願祭（1月1日）
祈年祭（3月23日）
元宮祭・貴船社祭（4月第1日曜日）
夏越大祓式（6月下旬）
旧宇佐郡戦没者慰霊祭（8月第1日曜日）
例大祭・神幸祭（10月第4土・日曜日）
新嘗祭（12月23日）
大祓式・除夜祭（12月31日）
月次祭（毎月1日）



【事務局】

〒872-0506

宇佐市安心院町妻垣 330-1 妻垣常彦方

妻垣神社社務所

電話番号 0978-44-2519

<http://tumagakijinjya.com/jinjya.html>

御祭神・御神徳

比咩大神（玉依姫命）

子孫繁栄・縁結び・安産・子宝・子育て

八幡大神（応神天皇）

国家鎮護・家内安全・殖産興業・厄除開運

神功皇后（息長帯姫命）

神人交歓・勝運・開拓・安産・子宝・子育て

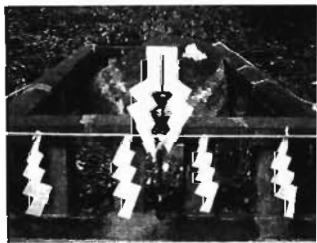
行幸会

行幸会とは、奈良時代中期に始まった放生会と並ぶ宇佐神宮二大特殊神事の一つである。6年に一度、八幡大神の御神徳の御発揚を促すため、御神体である薦枕（薦神社の三角池の薦で作った枕）を新たに作り替えて、神輿に乗せ、八幡大神の御霊行の地である八ヶ社（田笛社・鷹居社・郡瀬社・泉社・乙咩社・大根川社・妻垣社・小山田社）を巡行して、本殿に安置され、古い御神体は、国東地域を經由して八幡奈多宮へと向かう神事である。しかしこの神事は莫大な費用がかかり、神事を執り行う事が容易ではなかった為、しばしば中断すること多々あり、元和二年（1616）、細川忠興によって再興されて以降絶えている。当社は7番目の巡幸となり、2泊3日滞在し、初日に下宮、翌日、上宮の祭事が盛大に執り行われていたようである。また、元和の神事では、本殿より白い湯気が三本立ち上がったという不思議な出来事があった。

御由緒

当社は比咩大神の垂迹された地とされる。初代天皇である神武天皇（神倭伊波禮毘古命）は日向を發し、御東征の途中（紀元前667）、筑紫の国宇佐の地に立ち寄られる。宇佐国造の祖宇沙都比古命・宇沙都比賣命は、宇佐の川上に宮を造り大御饗を奉る。

天皇は翌朝、四方を觀て曰く、『ああ、ここは靈なる地である。連山は四方に廻り長城の如し。一河（深見川）の漣波は徐かに流れており、浄気の霧を布いた玉露の地にして、本当に豊饒の境である。そして連山の中央にある共鑰山（妻垣山）は多くの峯々よりも素晴らしい。我、母后（玉依姫命）の御靈をここに祭ることにする。』原廟を建て御自ら祭祀に臨まれる。するとたちまち山岳は動揺し、河水は激しく崩れ流れる。



そして河の淵の中に靈石が顕れ、神女、石上にお立ちになって曰く、『我、天朝の安泰を祈り、衆生を利する為に清浄の河水に浴洗する。浴水の所を末代に至るまで汚穢すことはせぬように。このことを信じぬものに対して信じさせるために、この石の上に足跡を留める。疑うことなかれ。』このように告げ終え、山上に至り原廟に留まる。帝、肅然として左右を顧みて曰く、『これは玉依姫の御靈である。』侍臣ことごとく新たなる

神靈を拝した。天皇は原廟を「足一騰宮」と名付け、東国へと旅立たれる。そして天皇は、侍臣天種子命に宇佐津媛を勅嫁させ、廟をお守りする役を命じ東国へと旅立たれた。

天平五年(733)、比咩大神は『我、八幡大神に副い奉らん』との御神託を下し、宇佐宮第二御殿に祀られることとなる。

天平神護元年(765)閏十月八日、宇佐宮の八幡大神は勅使石川豊成に神託して曰く、『我、是より安心院に至る。共鑰山に社殿を設け祀るように。』当地に社殿を設けて八幡大神を祀り、併せて足一騰宮より比咩大神を鎮め奉る。天長年間(823~834)、宇佐宮より神功皇后が勸請。以後当社は比咩大神を主祭神とし、宇佐宮八ヶ社の一社となり宇佐郷の宗社となる。

当社は官民の崇敬厚く厳肅なる祭事がおこなわれ、社殿等もその都度修営をおこなってきた。中でも嘉暦三年(1328)新田義貞に敗れ九州に逃れた足利尊氏は、宇佐宮に参籠し武運の再興を祈願し流鏑馬の神事を当社にておこなった。また貞治五年(1366)九州探題今川貞世は当社周辺での墓の建立・乱暴狼藉などを禁じた禁制を發布する。しかし天正九年(1581)大友氏の兵火によって社殿神宮寺等悉く焼失してしまう。その後社殿は黒田長政公によって再建され、細川・松平・奥平氏と歴代藩主の崇



敬も篤く、多くの地田も寄進されてきた。

明治時代に入ると、国の神仏分離政策により境内にあった神宮寺延命院は廃寺（現在、曹洞宗八幡山神徳寺にて本尊普賢延命菩薩を安置）。明治十二年(1879)九月十九日、縣社に列格。大祭には地方長官が供進使として参向した。大正二年(1913)四月、社司林正木によって境内に神職教員養成学校騰宮学館が創設され、昭和三十八年(1963)まで多くの神職教員等を輩出してきた。また近年は、作家松本清張の耶馬台国小説『陸行水行』の舞台となった。

境内摂社



貴船社 御祭神は、閻魔神・高靈神。この両神は山上・谷川に住む竜神とされ、水の調整を自在に操り、国土を潤し、草木の生育とすべ

での食料を豊かに繁茂させる神である。

種子山神社 御祭神である天種子命は、神武天皇より玉依姫命を祀る足一騰宮を守護する役を命じられ、宇沙都比賣命を天皇の仲立ちにより妻に娶った。「妻垣」という地名はこの故事になぞらえたものである。以前、この御社は共鑰山の入山口（宇権現）に鎮座していたが、昭和の中頃から行方不明になっており、早急な再建が望まれる。